



# 災害の防止と消防活動の安全を誓う

## 令和二年度殉職消防職・団員慰霊祭

題 字  
初代会長 松野 盛吉  
定 価 1部 48円  
(購読料は年会費に含む)

発行人  
〒010-0951  
秋田市山王四丁目1番2号  
秋田地方総合庁舎内  
秋田県消防協会  
会長 高橋 正尚  
電話 018-867-7320  
FAX 018-863-5910  
<http://www.shoubou-akita.or.jp>  
E-mail:ask@shoubou-akita.or.jp

印 刷  
〒010-0951  
秋田市山王7丁目5-29  
株式会社 松原印刷社  
電話 018-862-8760  
<http://www.matsubarainsatsu.co.jp>

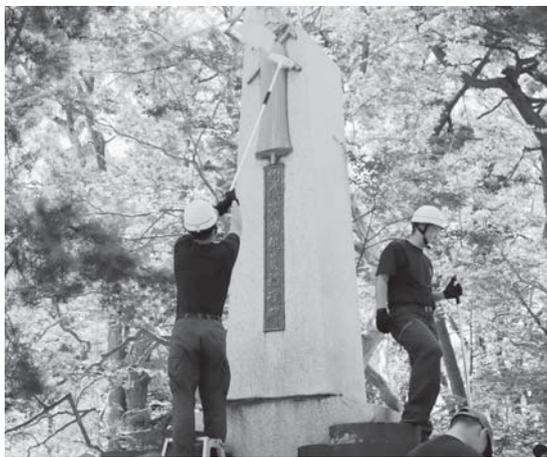
令和二年度全国統一防火標語  
その火事を  
防ぐあなたに  
金メダル



令和二年度第九三回(殉職消防職・団員慰霊祭)が、九月八日(火)秋田市千秋公園本丸の「殉職消防組員招魂碑」前において、秋田県消防協会が祭主となり執り行われました。

防止のため、来賓と遺族の参加を見送り、消防協会役員など二〇名が参列しました。

神事の  
後、高橋正尚秋田県消防協会会長が、「ここに合祀されている四七柱の御霊が不屈の消防魂で職責を全うされたその崇高な精神は、県内消防人の鑑であり、我々消防人は御霊のご遺訓を胸に、一致団結して地域住民の安全・安心のため最善を尽くすことを誓います。」と祭主祭文を奏上しました。



秋田市千秋公園本丸に建立されている「殉職消防組員招魂碑」の清掃は、毎年、秋田県消防学校初任教育課程の情操教育の一環として行われています。

今年も、九月八日(火)の慰霊祭に先立ち、八月二七日(木)に六一名の入校生によって行われました。

始めに、全員が「招魂碑」に向か

第七四期初任教育入校生  
殉職消防組員招魂碑を清掃  
秋田県消防学校

い黙とうを捧げた後、碑内の玉石を移動させて枯れ葉やゴミを除去したり、周囲の雑草などを取り除いたほか、碑に付着したコケなどの汚れを洗い流しました。

入校生の皆さん、ありがとうございました。



第二回理事会  
秋田県消防協会

一般財団法人秋田県消防協会第二回理事会は、九月八日(火)、令和二年度殉職消防職・団員慰霊祭終了後、イヤタカ(秋田市中通)で開催されました。

主な協議事項等は、次のとおりです。

【協議事項】

①日本消防協会定例表彰の上申

特別表彰まといは小坂町消防団、表彰旗は八郎潟町消防団、竿頭綬は北秋田市、八峰町、井川町の各消防団、その他の表彰についても対象者を決定しました。

②秋田県消防協会定例表彰

各支部から上申されたとおり授与することが承認されました。  
・勤続章 五九五名  
・功労章 四八名  
・消防団員家族表彰 六家族(一九名)

【報告事項】

①令和二年度消防車輛の交付要望

羽後町消防団の要望車両(SUV型)を日本消防協会に申請しました。

②全県消防団長研修会

十一月三日(金) 一四時、イヤタカ(秋田市中通)で「消防団員の惨事ストレス対策」をテーマとして開催します。

③女性消防団員ネットワーク会議

一二月五日(土) 一三時三〇分、イヤタカで講演や活動事例発表を行います。

※講師は、富山県小矢部市消防団 女性分団 分団長 嶋田幸恵 氏に決まりました。

④若手消防団員を対象とした行事の開催

令和三年二月六日(土) 一三時、イヤタカで講演やグループディスカッションを行います。

⑤消防団員研修

■女性消防団員教育訓練

一〇月一〇日(土)～一一日(日) 場所：秋田県消防学校

■消防団員の惨事ストレス対策

セミナー《県内三〇名》  
十一月一四日(土)

場所：イヤタカ(秋田市中通)

※会場を変更しました。

■消防団員指導員研修

十一月二八日(土)～二九日(日)

場所：秋田県消防学校

■消防団員幹部教育指揮幹部科

分団指揮課程  
令和三年二月二七日(土)～  
二八日(日)

場所：秋田県消防学校

■消防団員基礎教育

令和三年三月六日(土)～  
七日(日)

場所：秋田県消防学校

■消防団員幹部教育指揮幹部科

現場指揮課程

令和三年三月一三日(土)～  
一四日(日)

場所：秋田県消防学校

74期 初任教

実務研修を終えて

秋田県消防学校



小玉 竜也  
(秋田市消防本部)

消防学校の訓練や座学で知識、体力、技術を身につけて約四ヶ月。同期の仲間と共に訓練を重ねてきて、多くの知識を手に入れたと思っている。

それを実務研修で見せることができると思っていたが、甘かった。

吹き抜けのある二階へのホース延長で小縄を渡されたが、その意味を考えずに活動してしまった。

本場ならば、ホースを吊り上げてやらなければならないと後から気がついた。

また、現場想定訓練では、放水、三連梯子で侵入、検索救助など、火災発生時に行う活動を一気に行ったのだが、足がつつてしまい、自分だけ離脱することになってしまった。

現場でこうなってしまうと、先輩や多くの人に迷惑がかかり落胆させてしまうだろう。

こうした訓練中でも要請があれば出動しなければならない。

残り一ヶ月で体力作りを中心に知識や技術を身につけていきたい。



相原 翔琉  
(秋田市消防本部)

二回目の実務研修だったが、まだまだ慣れない部分が多くあった。

階段を使った二階へのホース延長では、結合金具の置く位置やホースのねじれなどに注意して行ったが、スピードや余裕ホースを取ることができていなかったため、残り一ヶ月で直すようにしたい。

防火衣を着装して訓練したので、とても暑かった。

所属では、こういう訓練は毎日あるので、暑さに慣れて問題なく活動できるようにする。

午後は応用訓練で、放水したり、呼吸器を背負って検索したり、午前以上に大変だった。

三連梯子を使った訓練では、所属のやり方を新しく学ぶなど勉強になった。

隊長の命令は絶対なので、しっかりと指示を聞き、ミスなく行動できるようにする。

消防学校も残り一ヶ月となった。一日一日を大切に、無事に卒業できるように頑張りたい。



戸川 颯斗  
(鹿角広域行政  
組合消防本部)

今回は二回目の実務研修であったが、私にとっては今回が一回目であったため、前回の分も取り戻せるよう取り組んだ。

現場で活動することをイメージするとともに、自分の技術力向上を目標とした。

所属からは、即戦力となることを期待されているため、今回の実務研修には強い気持ちで臨んだ。

訓練では、火災防ぎよや車両誘導、ホースカー等によるホース延長要領、三連梯子の要領、器具結索などを一通り行った。これまで消防学校で学んだことを発揮できたと思う。改善点は、巻き結びを様々な方法で作成できるようにすることだ。

一人の消防士として戦力になるためには、まだまだ学ぶことや技術が必要だが、今回の研修で見つけた課題や反省点をこれから活かしていくとともに、たくさんの方の知識・技術の習得に努めていきたい。



安井 晴貴  
(能代山本広域市町  
村圏組合消防本部)

今回の研修では、予防業務、乗車訓

練、三連梯子取扱訓練、救急訓練、暑熱順化トレーニングを行った。

三連梯子の訓練では、一、二連目が同時に伸梯する梯子を使用し、各番員の動きに違いがあったので、繰り返し訓練して習熟に努める。

三重もやいの作成では、無駄な動きが多く時間がかかったため、迅速確実に作成できるように、練習して感覚を掴むようにしたい。

救急訓練では、PA連携としてポンプ隊の隊長役でシミュレーションを行った。

学校の訓練を思い出しながら、意識、呼吸の確認、胸骨圧迫の評価、気道確保等、現場を想定し行うことができた。

実際には隊員として活動するので、隊長の指示を先読みして活動できるよう反復していく。

暑熱順化トレーニングでは、完全着装で庁舎周りを歩き、一周したら面体着装、三重もやいの作成を十回繰り返した。

面体を着装すると視界が狭くなるが、現場でもあり得ることを意識して行うことができた。

暑い夏、現場で活動できるように、トレーニングに取り組みたい。

一ヶ月後には実務に入り、実際に現場にも出場するので、残りの学校での過ごし方についても見直し、更に気合いを入れて励んでいく。



渡部 颯人  
(湖東地区行政一部  
事務組合消防本部)

二回目の実務研修では、習得することがたくさんあった。

車両点検では、車両のランプの名称の多さに驚いた。

資機材点検では、どの車両にどの資機材があるかを教わった。

それぞれの名称と使い方をしっかりと覚えて、所属で使えるよう努力したい。

午後の応急はしご訓練では、素早くやるだけでなく、正確さが大事と教わった。

掛けがねがしっかりと掛かっているか、三重もやいが身体にしっかりとまるかを確実にやるのが大切だと感じた。

ホースの中継要領では、防火衣、呼吸器を着装して行った。

ホースカーを使う時はスピードも大事だが、自分で止まれるくらいでないといけないと教わった。

火災現場で止まらずに二次災害が起きることがないように十分注意して扱いたい。

今回の実務研修では、早さも大事だが焦らず正確確実に行動しないとイケないと思った。

学校生活も残り少ないので、一生懸命努力したい。



安田 夏葵  
(男鹿地区消防一部  
事務組合消防本部)

今回は所属に戻る前の最後の実務研修なので、前回よりも成長したと感じてもらえるよう、挨拶をしっかりと行い、声を出し、自分から積極的に行動するよう心掛けた。

午前中は通信業務について学んだ。色々なことを考えながら通報者に聴取し、的確に指令を出さなければならぬので、本当に大変なところだと感じた。

また、言語障害や聴覚障害の人でも通報できるNet119が導入され、どんな人でも通報できる工夫がされていることが分かった。

午後から放水訓練を行った。背負式に積んであるホースやホースバックのホースを延長する作業を行った。

結合部の確認や余裕ホースを取るなど、基本的なことが重要だと改めて感じた。

夜間の通信勤務では、実際の救急の通報が流れ緊迫した状況の中で冷静に手際よく対処している先輩方は本当に凄いと思った。

残り一ヶ月弱で所属に戻るの、更なる成長を求めて残りの期間頑張ろうと思う。



因幡 航希  
(大曲仙北広域市町  
村圏組合消防本部)

三回目の実務研修を終え、また新たな知識経験を積むことができた。

一回目より二回目、二回目より三回目と各回の研修を大事にし、取り組んできた。

今回の研修では、知識・技術の未熟さを改めて痛感した。

朝から貴重な経験をした。

資機材の点検を見学していた時、火災の指令が入り、車庫の中が騒然となった。

私たちは驚いてあたふたしていた所、すぐさま防火衣を着装し出動していった。

生の出動を見て、冷静さ、スピードを肌で感じる事ができた。

その後に行われた防火衣着装訓練では普段通りにできず、速さ、正確さがまだまだ足りないと感じた。

また、ホース延長訓練では、今まで学んだもの以外に、馬蹄折りを習った。

大曲仙北では重要な折り方であり、かなり覚えたいと思った。

今回は、初任科での成果を出せたもの、まだまだと思うことがあり、完璧に熟すことができなかった。

残り一ヶ月、即戦力として貢献できるように努めていきたい。



佐々木 優斗  
(大曲仙北広域市町  
村圏組合消防本部)

二回目の宿泊の実務研修は、とても貴重な経験になった。

特に印象に残ったのは、訓練中に救急の出動指令があり、ドクターヘリから要救助者を引き継ぐところを見学できたことだ。

初任教育中に間近に見るのは、とても貴重な経験だと感じた。

座学は査察と救急を行った。

査察は、資料やDVDの映像で実際の査察の様子を教えていただいた。

消防学校での座学が活かしているような気がしてうれしかった。

救急では、通報内容からどのような状況なのか病名を答える訓練を行ったが、答に近づけず、まだまだと感じた。

その他、基本的な結索から放水まで様々なことを行い、ポリタンクを携行するための結索をしつかりと覚えることができた。

角館消防署は雰囲気も良く、とても有意義な実務研修となった。



高橋 大輝  
(湯沢雄勝広域市町  
村圏組合消防本部)

最後の実務研修を終え、現場活動の動きや心構え、当務中の過ごし方などを改めて学ぶことができた。

訓練では、応急はしご訓練と火災防ぎよ訓練を行った。

応急はしご訓練は、学校で習っていることを基本に、三重もやい結びを落とさぬように、先に結索部分を渡してからベルトに掛けている部分を取るなどの工夫をしながら行った。

要救助者への声のかけ方や隊員同士の連携を密にすること、ダミーを本当の人だと思つて扱うなどのアドバイスを受けた。

火災防ぎよ訓練では、ポンプ車からホースを延長して実際に放水した。

ホースカーの操作や手びろめによる延長は訓練の成果を出せたと思うが、放水の反動力を考えたら余裕ホースを十分に取る事ができず指摘を受けた。

四ヶ月半の訓練を経て、動きや注意点などを頭と体で覚えてきたと思うが、実際の現場活動で自分の役目を果たせるかを考えると、知識と技術の不足を痛感する。

残りの学校生活を有意義に意欲的に過ごし、一回り二回り成長した姿を所属の先輩方に見せることができるように引き続き頑張りたい。



秋 田 県  
消 防 学 校

初任教育第七四期修了式  
六二名修了第一線での活躍を期待

秋田県消防学校第七四期初任教育の修了式が九月一八日(金)、同校の屋内訓練場で、各消防本部消防長など約一〇〇名が出席して行われました。六二名の修了生は、六ヶ月間の厳しい訓練を乗り越え、明日から、それぞれの所属消防本部に着任し消防士として活動することになります。

修了式は、進藤学校長が修了生一人ひとりに修了証書と成績優秀者に表彰状を授与した後、秋田県知事あいさつ(代読)、来賓祝辞(工藤秋田県消防長会長・高橋秋田県消防協会会長)と続き、修了生が答辞を述べ、最後に校歌を演奏して終わりました。

表彰状授与

優 秀 賞 (四名)

- 大館市消防本部 横 瀨 孝太
- 由利本荘市消防本部 今 野 景太
- 由利本荘市消防本部 佐 藤 健司
- 能代山本広城市町村圏組合消防本部 安 井 晴貴

功 勞 賞 (五名)

- 男鹿地区消防一部事務組合消防本部 佐 藤 尚人
- 由利本荘市消防本部 田 口 奏
- 湖東地区行政一部事務組合消防本部 菅 原 和希
- 秋田市消防本部 成 田 幸介
- 男鹿地区消防一部事務組合消防本部 加 藤 広大



学校長式辞 (要約)



秋田県消防学校  
学校長  
進藤 隆男

皆さんが新たな一歩を進めるに当たり、私から二つお話しします。

一つ目は「常に前向きに少しでも進み続ける」ことです。皆さんは、これから多くの職場や様々な仕事を経験していきます。その間、どんな状況でも歩みを止めず前向きに進み、成長し続けることを意識してほしいと思います。

二つ目は「苦しいときは音を上げる」ことです。これから想像を越えた困難や厳しい現場に直面し、身心に大きな負担が掛かることがあると思います。そうした時、仲間や上司に遠慮なく音を上げて、心の内を解放してください。そして、いつの日か、仲間の痛みや苦しみの一端を引き受けられるようになってほしいと思います。

各消防本部はもちろん、地域の方々も皆さんの若い力に大いに期待しています。「人を助けたい」という初心を忘れず信念を貫き、堂々と職責を果たしてください。皆さんの健闘を大いに期待しております。これからの消防人生が、実り多いものになるよう祈念申し上げます。

修了生答辞 (要約)



男鹿地区消防一部  
事務組合消防本部  
消防士  
佐藤 尚人

仲間と共に、厳しい訓練や座学、トレーニングに取り組んだ時間がお互いの絆を深め、社会人、消防職員として成長することができました。

近年、地震や異常気象による大雨、土砂災害など各種災害による悲惨なニュースは後を絶ちません。こうした中で、私たちは地域住民の安心安全を守り、困っている人を助けたいという強い思いと使命感を忘れず、消防業務に尽力して参ります。

この半年間、この消防学校で培ったことを胸に、各地域そして秋田県消防の更なる発展に資することを誓い、答辞といたします。



74期教育  
新任

半年間を

振り返って

秋田県消防学校

秋田市消防本部 成田 幸介

長いようであつたという間の半年間だった。辛く苦しい事もあつたが、仲間助けられ頑張ることができた。それぞれ所属に戻ることになるが、これからもこの仲間を大切にしたい。

秋田市消防本部 越中 朝陽

振り返つてみると案外短い半年ではあつたが、中味はかなり濃密なものだったと思う。別れるのは心苦しいが、それぞれの所属でみんなが活躍できるように高め合つていきたい。

秋田市消防本部 加藤 祥

この六ヶ月間はかけがえのないものだと思います。仲間と毎日切磋琢磨して成長することができました。入校した時は辛かったけれど、今は卒業するのが辛いです。それほど充実した半年間だったと思います。

大館市消防本部 木立さくら

緊張と不安でいっぱい四月からもう半年が経ちました。訓練礼式や消防の基礎を学び、今の自分は成長したと感じることが出来ます。仲間と支え合い協力し合つた半年間の経験を大切にしていきたいです。

北秋田市消防本部 近藤 伸亮

私は小さな変化に気づくことが重要であることを学んだ。道端に落ちているゴミや掲示物が曲がっていることに気づくようになることで、現場活動の安全管理や傷病者の状態変化に素早く対応出来るようにしたい。

由利本荘市消防本部 田口 奏

入校前は半年間は厳しい道のりだと思つていたが、始まつてみると座学、訓練に夢中であつたという間に時間が過ぎたように感じる。出会つた同期との絆を大切に、職場に戻つても初心を忘れずに頑張つていきたい。

由利本荘市消防本部 佐藤 健司

この半年間は非常に実りの多いものでした。消防の知識が何も無い状態から機材の扱い方、査察で必要な知識、人として温かい心を持つことを学びました。半年間で学んだ事を忘れず、所属に戻つても技量に磨きをかけていきたいです。

にかほ市消防本部 小林 大理

初任教育が四月に始まり、長いようで短い日々を過ごしてきました。最初は不安が多かったですが、七四期の皆と過ごした時間は素晴らしいものでした。初任教育を終えても皆と交流を続けていきたいと思えます。

横手市消防本部 五十嵐駿悟

初任教育の半年で、何も分からないう状態から様々な知識を身に付けることが出来ました。訓練はともきつかったですが、七四期の皆と一緒にやりきることが出来ました。辛くも楽しい半年間だったと思います。

鹿角広域消防本部 石坂 賢太

この半年間がとても長かつたと感じる。それは一日一日の内容が濃く、毎日多くの知識を取り入れたからだ。入寮時のことが懐かしく感じられる分、確実に成長できていると思う。私にとって貴重な半年間だった。

能代山本広域消防本部 後藤 啓吾

この半年間、座学訓練共に全力で取り組むことができたと思います。消防用設備や査察等の座学、現場活動を想定した火災防訓練など、必要不可欠なものでした。半年間で得た知識をこれからの消防人生で活かしていきたいです。

湖東地区消防本部 菅原 和希

半年間で多くの事を学ぶことが出来た。七四期の仲間とも出会えた。生活を共にし、楽しい事も苦しい事も一緒に過ごした日々が終わると思ふと寂しくなるが、消防士として成長し、また会うことを楽しみに所属に戻り頑張りたい。

男鹿地区消防本部 佐藤 尚人

思い返すとあつたという間の半年であった。同期と過ごした内容の濃い充実した生活は、私にとつてかけがえのない財産だ。またいつか同期と会えることを楽しみにしています。

男鹿地区消防本部 伊藤光輝人

この半年間は、新たな出会いと初めての経験ばかりで、生まれてから一番濃い半年間でした。この経験を生かして、所属で即戦力になれるように努力していきたいです。

男鹿地区消防本部 阿波野睦紀

社会人として初めて仕事をした半年間でした。覚えることが多く、大変でした。訓練も厳しい時があり、心が折れそうでした。そんな時、七四期の仲間が支えてくれました。最高の仲間と出会えてよかったです。

大曲仙北消防本部 須田 忠厚

総員六二名で切磋琢磨しながら過ごせた。難しい座学や厳しい訓練も七四期の仲間と助け合いながら、学びを深めることができ幸せだった。これからの消防人生は、この経験を糧として精進していきたい。

大曲仙北消防本部 鶴岡 咲栄

半年間で色々な経験をすることができた。寮の団体生活で仲間を気遣つたり、身の回りのことも一通りで



きるようになった。仲間と別れるのは悲しいが、ここでの生活を思い出し、頑張っていきたい。

**大曲仙北消防本部 高橋 麗翔**  
 学校では消防士として必要な技術や知識を学びました。所属に帰ったら学校で身に付けた技術や知識を生かして、地元の方々に信頼される消防士を目指したいと思います。

**湯沢雄勝消防本部 柴田 英寿**  
 半年間で沢山の仲間を作ることが出来ました。厳しい訓練も共に取り組んだおかげで乗り越えることが出来たと思います。これからもこの仲間たちとの友情を深めていきたいと思っています。

## 秋田県総合防災訓練

秋田県総合防災課

八月三〇日(日)、由利本荘市を会場として秋田県総合防災訓練が実施されました。

新型コロナウイルス感染症防止のため住民の参加は見送り、県、同市、県警、消防、自衛隊など、三〇機関から約四〇〇名が参加しました。

訓練は、同日九時過ぎ、秋田沖を震源とするM8.7の地震が発生、同市で震度6弱を観測、大津波警報が発令されたという想定で行われました。

「津波災害救助訓練」では、津波が子吉川を遡上し、流された人や対岸に取り残された人、押し流された家屋や瓦礫の下敷きになった人を関係機関が連携して救助しました。

「多重交通事故対策訓練」では、地震により、走行中の大型バスを含む複数の車両事故で負傷者が多数発生したと想定。

近隣消防本部への応援、医師会への医師派遣、医療機関への受入を要請し、ヘリ・車両で負傷者の搬送を行いました。

「避難所開設運営訓練」では、避難者の検温を行うなど、感染防止を考慮した避難所の開設・運営を確認しました。



多重交通事故対策訓練



津波災害救助訓練

トーハツ消防ポンプ  
 モリタ自動車ポンプ  
 消防被服全般  
 秋田県代理店

総合防災設備センター

## 株式会社 高義商会

(営業種目) トーハツ小型動力ポンプ  
 モリタ自動車ポンプ  
 ジェットホース  
 消防被服全般  
 火災報知器各種  
 消火器各種



〒012-0105 本社 湯沢市川連町字万九郎屋布32  
 TEL(0183)(42)2125  
 〒012-0844 湯沢市田町 TEL(0183)(73)2588

## 株式会社 夕力ギ

秋田県横手市寿町1番28号  
 TEL (0182)(32)3880  
 FAX (0182)(32)0839

(営業種目)

日本機械自動車ポンプ | 消防設備保守点検  
 トーハツポンプ | キンパイホース  
 各種消防機械器具 | 各種消火器

ホームページ <http://it-yokote.sakura.ne.jp/>  
 E-mail [ykttkg@jasmine.ocn.ne.jp](mailto:ykttkg@jasmine.ocn.ne.jp)

### 支部情報アラカルト

#### 男鹿市消防団は男鹿地区消防署と合同訓練を実施しています！

今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、消防操法大会を始め各種大会が相次いで中止となっています。

そこで、男鹿市消防団は、消防団員と消防職員のお互いに顔が見える関係の構築や、災害現場でより円滑な連携活動を行うことを目的に、男鹿地区消防署と合同訓練を実施しています。

この訓練は、男鹿市消防団全ての



分団を対象に行っており、各分団が管轄する地域の特性等を考慮した訓練や、消防団員の資質向上を目的とした救急救命講習など、訓練内容は多岐にわたっています。

コロナ禍によって、消防操法訓練や全市をあげて行う総合防災訓練など、消防団員にとって必要不可欠な訓練が行えないなか、今回実現した合同訓練は多くの団員から好評をいただいております。

今後も、男鹿市消防団は可能な限り合同訓練を実施し、地域の安心・安全を守る消防団員として、スキルアップを目指していきます。



〔情報提供 男鹿南秋潟上支部〕

#### 火災の発生状況 (速報値)

(秋田県総合防災課調べ)

	令和2年		令和元年			同期比較	
	9月	累計	9月	累計	年計	9月	累計
建 物	7	104	18	145	198	-11	-41
林 野	2	22	1	32	32	1	-10
車 輛	2	19	2	20	31	0	-1
その他	10	73	5	88	95	5	-15
合 計	21	218	26	285	356	-5	-67
死者数	2	12	0	13	18	2	-1
負傷者数	4	29	7	61	85	-3	-32

消防 半天・帯・団旗  
優勝旗・ゼッケン  
手拭・タオル・のれん  
旗幕類名入染物専門

## 寺 田 染 工 場

横手市清川町 ☎32-0416

モリタ消防ポンプ シバウラポンプ  
桜ホース・ソフト吸管 消防被服一式  
各種消火器 消防機器一式

株式会社 能代消防センター  
株式会社 協 立

〒016-0814 能代市能代町字中川原33番地57  
TEL (0185) (52) 6494  
(52) 6361

地域の防災、災害対策に貢献！

消 防  
ポンプ自動車  
小型ポンプ  
ホース

設 備  
火災報知器  
スプリンクラー  
消火器

## 猿田興業株式会社

秋田市山王六丁目10番9号 TEL 018 (863) 1551(代)  
猿田興業ビル3F FAX 018 (824) 3651